



宮司ブレス 第百八十四号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和四年二月 十一日

◇宮司の柴田です。 境内を吹き抜ける風は穏やかなのですが、立春を過ぎたというのに、底冷えのする残寒厳しき折節（おりふし）です。

◇さて、立春の名称には三つあると御存知（ごぞんじ）でしたか。 本年の立春は、「新年立春（しんねんりっしゅん）」でありました。 明治五年十一月三日に、現在の太陽暦（たいようれき）に改暦（かいかいれき）されるまで、わが国は、

太陰太陽暦（たいいんたいようれき）、いわゆる、旧暦（きゅうれき）を用いていました。 その旧暦では、元日と立春の日付が、最大で半月ほどずれていたのです。 「新年立春」とは、

旧暦の元日を迎えて立春を迎えることで、本年も含めほとんどの立春は、この「新年立春」です。ところが、旧暦の元日を迎えずに立春を迎える年がございます。これを「年内立春」といいます。平安時代の歌人で、在原業平（ありはらのなりひら）のお孫さんで、在原元方（ありはらのもとかた）が詠（よ）んだ和歌が、

「年の内に 春は来にけり ひととせを

こそとや言はむ 今年とや言はむ」

というものです。 現代文になおしますと、「年

が変わらないうちに、立春が来てしまったこの年を、去年というべきか、今年というべきか」となりまして、「年内立春」にとまどつていらつ

しやる印象（いんしょう）をうける和歌です。 悠久（ゆうきゆう）の長い時間を超えて、古今（ここん）珍しくとまどいがちな暦ということ

になります。そして、三つめが、「朔旦（さくたん）立春」です。元日が立春に当たるとい

う、「立春正月」ともいわれて、大変、おめでたい日とされてきました。この稀（まれ）なる

吉日は、前回は、平成四年のことで、次回は、十六年後の令和二十年となるそうですので、四

十六年の周期でおとずれることになりました。 ◇ちなみに、余談（よだん）となりますが、伊勢の神宮さんは、二十年に一度、御社殿（ごしやでん）等神宝（しんぼう）類、すべてお建て

替え新調（しんちよう）されますが、これを式年遷宮（しきねんせんぐう）といいます。な

ぜ、二十年に一度なのか諸説（しよせつ）あります。そのうちのひとつとされるのが、「原点回

帰説（げんてんかいきせつ）」といわれるものです。 旧暦の十一月一日が冬至に当たる日のこ

とを、「朔旦（さくたん）冬至」といいます。この日は、最大で最強の吉日とされ、天皇陛下は紫宸殿（ししんでん）に出御（しゅつぎよ）されお祝いをされました。ほぼ十九年に一度のこと、この周期に基（もと）づき二十年と定められたとされるのが、「原点回帰説（げんてんかいきせつ）」とされる、「朔旦冬至」の周期なのです。

◇何気（なにげ）ない日常の暦のなかに、御先祖様方の様々な思いや祈りが込められていることに、あらためて驚（おどろ）かされます。感慨（かんがい）深いものがあります。 昨今は、「ハッピーマンデー構想」なるもので、祭日（さいじつ）祝日（しゅくじつ）が休日化して

います。まさに、古き良き時代の「しきたり」「儀礼（ぎらい）文化」「生活の古典」が失われ

ていくような気がしてなりません。 ◇コロナ禍になって三年目、私は、「共に集ま

る」、「共生（きょうせい）の場」が失われているのではないかと危惧（きぐ）しています。他人の身体は、自分の命を脅（おびや）かすリス

クとなる存在という認識は、新しい生活様式を生み出しました。 外出等の自粛（じしゅく）、

マスクの着用やパーテーションの設置など社会的距離の確保が、活動の条件となり、その新

しい生活様式を受け入れていく日々が続いています。 今月は、二十八日しかない「小の月」

ではありませんが、日本人として大切な「生活の古典」とも言うべき、祭日祝日があります。日本の日本の建国を祝う紀元祭(きげんさい)、七日の五穀豊穡(ごこくほうじょう)を祈る、「祈年祭(きねんさい)」、さらに、天皇陛下のお誕生日をお祝いし、天壤無窮(てんじょうむきゆう)の皇室の弥栄(いやさか)を祈る天長祭(てんちょうさい)、いづれも重儀(じゅうぎ)であります。遺漏(いろう)無く、厳かに執り修めることが、「生活の古典」を継承し、さらに、「共に集まる」、「共生の場」を見失うことのない、私共のつとめではないかと、思いを新たにしています。御自愛を祈ります。

◇一月の祭典行事報告

▼歳旦祭(本宮・田の首八幡宮・貴布禰神社)  
福浦金刀比羅宮



\*一月一日

▼干支の書初め \*一月二日

▼元始祭 \*一月三日

▼会社関係新年団体参拝

\*一月四日～六日

▼七草 \*一月七日

▼どんど焼(古神札正月飾焼納祭清祓式)

□本宮 \*一月十五日



□田の首八幡宮 \*一月十日

▼六連島八幡宮歳旦祭 \*一月十一日

▼月次祭 \*一月十五日

▼安倍元内閣総理大臣参拝 \*一月十六日

▼養殖和布実行組合火入式 \*一月十八日

▼花手水実施 \*一月一日～十七日

▼楼門にお多福(たふく)門設置

▼朝粥会 \*一月二十一日

◇二月の祭典行事予定(報告も含む)

▼月次祭 \*二月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭 \*二月十五日

▼節分祭 \*二月三日



有志による「恵方巻」販売

▼紀元祭 \*二月十一日

▼祈年祭

※本宮 彦島八幡宮 \*二月十七日

※六連島八幡宮 \*二月二十五日

※田の首八幡宮 \*二月二十七日

▼朝粥会 \*二月二十一日

◇一月の宮司動静報告

▼山口県神社庁関係

□五社会 \*一月二十一日

□山口県神社庁下関支部総会

\*一月二十五日

□山口県神社総代会役員会\*一月二十七日

▼人権擁護委員会

□常設人権相談 \*一月十九日

◇二月の宮司動静予定(報告も含む)

▼山口県神社庁関係

□神社庁例祭、役員会 \*二月十三日

□神社庁支部長事務局長会議 \*二月十四日

□巡回祭典後講話研修会 \*二月二十二日

▼人権擁護委員会

□常設人権相談 \*二月十八日

▼学校関係、その他

□西山小学校CS \*二月十日

□玄洋中学校CS \*二月十四日

□迫町自治会役員会 \*二月十六日

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により二年連続「豆まき」中止、「福豆の御頒ち」